

豊橋市美術博物館友の会だより-2007年-秋号

Vol. 66  
FU風伯HAKU  
Autumn 2007



千總コレクション

## 京の優雅～小袖と屏風～

ただいま好評開催中～12月2日[日]まで 美術博物館

本展では、京都の友禪染の代表的な老舗のひとつ、千總(ちそう)が所蔵するコレクションを紹介しています。展示は、Ⅰ近代の千總、Ⅱ小袖コレクション、Ⅲ屏風コレクションの3部構成となっており、江戸時代から明治時代のきもの、近代の友禪染裂や美術染色、円山応挙や岸竹堂など京都画壇を代表する作家たちの絵画作品が展示されています。秋の一日、京都を舞台に花開いた優雅な美の世界をお楽しみください。



納戸縮緬地雲取に貝桶と花鳥文様小袖  
江戸時代中期～後期(18世紀後期)

着物制作の参考とするために蒐集された130領を超える千總の小袖コレクション。本展では、江戸時代中期から後期の作品を中心に、寛文小袖から明治時代の着物まで前後期あわせて50領ほどの優品を紹介する。本作品は、色彩の対比もあざやかで華麗な一領である。肩から裾まで大胆に配された五段の雲取りは絞り染で、身頃と袖を連続した文様とする絵羽付けである。地文様は友禪染による花鳥文様。上方には桜と貝桶、下方には牡丹秋草、孔雀などが描かれている。



## 写生図巻(甲巻)

円山応挙 明和8年～安永元年(1771～1772)  
重要文化財

円山応挙(1733～1795)は、西洋画の遠近法や中国の写実的な絵画を研究し、「写生画派」を確立した。この資料は、果物、木の葉、野草、花や小動物などさまざまな対象を描き、甲乙二巻の卷子に仕立てたもの。鴨のほか、躑躅、山茶花などの花々、山菜や植物の葉を観察し写生している。応挙40歳頃の作品であるが、すでに習画期とはいえないこの時期に数多くの写生図が残されており、応挙の作品が写生への継続的な努力の上に成り立っていたことを示している。

## 田村家資料展

12月15日〔土〕～1月27日〔日〕 二川宿本陣資料館

田村家は、元禄4年(1691)に二川宿へ移住し、当初は医業、のちに「駒屋」の屋号で質屋や米穀商を営みました。その一方、人馬の継立をおこなった問屋場の長である問屋役や、村役人の名主などを務め、当主は代々善藏と名乗りました。

田村家資料は、商家「駒屋」で使用された大福帳など



松竹図屏風(渡辺小華・田村幹筆)

の経営帳簿や、問屋場で記録された公文書など幕末期の二川宿の様相を知ることができる貴重な資料群で、平成17年度に二川宿本陣資料館に寄贈されました。

この展覧会では、宿内随一の有力者であった田村家に伝来する膨大な資料群をもとに二川宿の歴史を探るとともに、「幹擧」と号し渡辺華山の子で南画家であった渡辺小華に師事した9代当主善藏苗政(1830～1891)と、11代当主で東京帝国大学にて「カミナリ教授」の異名をとった医学博士・憲造(1889～1953)の2人を中心に田村家を紹介します。



大福帳

## Museum Check お出かけになりませんか？

会場	会期	展覧会名
愛知県美術館	～1月14日まで	ロートレック展 ～パリ、美しき時代を生きて～
名古屋市美術館	～12月14日まで	河口龍夫～見えないものと見えるもの～
名古屋ボストン美術館	～12月9日まで	レンブラント版画展 ～呼び交わす光と闇～
名古屋市博物館	12月11日～2月11日	トプカブ宮殿の至宝展 ～オスマン帝国と時代を彩った女性たち～
松坂屋美術館	11月23日～12月24日	キスリング展
岡崎市美術博物館	12月8日～2月11日	華人がゆく～藩政改革にかけた岡崎藩士の世界～
豊田市美術館	～12月24日まで	篠原有司男と榎忠～ギユウとチュウ～
岐阜県美術館	～12月26日まで	大ナポレオン展～文化の光彩と精神の遺産～
静岡県立美術館	～12月19日まで	心の風景 名所絵の世界
静岡県立美術館	12月28日～3月30日	ガンダーラ美術とパーミヤン遺跡展
国立新美術館	～12月17日まで	フェルメール「牛乳を注ぐ女」とオランダ風俗画展
東京都美術館	～12月24日まで	フィラデルフィア美術館展～印象派と20世紀の美術～

## 中村正義・星野眞吾～没後の節目を迎えて～

今年の中村正義が志半ばで没してから30年にあたる。健在であれば83歳。歴史に「もし…」は禁句というが、もし今なお活動を続けていたならば、おそらくはその気質と制作傾向から、一定の評価と地位に安住することなく、飽くことなく破壊と創造を繰り返していたであろう。それは自ら生み出したスタイル、グループ、公募組織についても同様であったかもしれない。

実際、生き急ぐかのように燃焼した52年間であった。結核・大腸癌・肺癌と、つねに病魔に脅かされ続けた体質に加え、高度経済成長期の熱に浮かされたような疾走感が、正義の後半生を加速した。映画・演劇への関わり、写実研究、住宅機能への関心、若い才能の支援、そして上下関係の無い組織の形成…、その一方で制作もまた精力的に続けられていた。汚濁をひっくるめ人間の生を謳歌した60年代の激しく奔放な画風から、70年代の見るものを震撼させるような鬼気迫る作品への変貌は、駆けつけてなおも追いつがる病魔に向き直ることで生み出されたものである。

「もし…」背後に立つ死の気配がなかったならば、明るい原色による“生”の作品群からどのような展開があったであろうか…。

それでも遺された正義の晩期の作品には、完成された生と死の凄絶な結実をみる。それは短期間であれ、正義の画業が完全な燃焼に向けての疾走であったことを物語っている。様式が確立されたのち、自らの様式のマネリスムに陥る長命の画家よりも、その生と画は濃密で充足したものであったといえるだろう。



星野眞吾「後ろ向きの二人」  
1987(昭和62)年  
後ろ向きの二人は中村正義と星野眞吾。背景には10年前に逝った正義の顔が浮ぶ。



星野眞吾「掌相<絶筆>」  
1997(平成9)年  
星野の絶筆。中央の陰影は掌を拡大したものである。晩期にみせた人拓画の新たな展開であった。

また、本年は正義の朋友でもあった星野眞吾・没後10年でもある。画塾に学び、日展の反逆児として挑発的な活動を展開した正義と、京都市立絵画専門学校に学び、パンリアル美術協会を結成して当初より前衛活動を繰り広げた星野とは、スタンスも画風も全く異なるものの、伝統や因習に抗いながらも日本画にこだわり、抽象表現主義隆盛のなかでも絵画表現を放棄しない、という点で近しい存在であった。実際、旧制中学時代の出会いにはじまり、日本画研究会、从会結成など、折に触れて歩みを同じくしている。74歳で没した星野は、視力・体力が衰える晩期においても自らの生み出した“人拓”に安住せず、最期まで新たな表現を求めて果敢に挑んだ「前衛」画家であった。

両者の没後の節目を迎える本年、常設展示において下記の日程で中村正義と星野眞吾の晩期の作品を中心に紹介する予定である。両者の初期・中期の作品はともに並置し、それぞれの歩みを比較するとともに、その果てに到達した晩期の作品をあらためてみていただきたい。

(豊橋市美術博物館学芸員 丸地加奈子)



中村正義「男女」  
1963(昭和38)年  
背後に何者かがたたくも横顔がすでにみられる。ここでは女の影で小さくなっていく男の姿をコミカルに描く。



中村正義「舞妓」  
1976(昭和51)年  
「男女」の展開を示す晩期の代表作。背後には太陽と月のような模様を描かれ、陰陽の対比がなされている。

常設展示●「中村正義と星野眞吾」

2007年12月18日(火)～2008年1月27日(日)  
2階第4・5展示室 【入場無料】

## 新しい美術博物館がなぜ必要になったのか。 新美術博物館の延期で見えて来たものはなにか。

豊橋市美術博物館の新館建設が、諸般の事情で延期になった。いま豊橋市美術博物館を取り巻く状況がどんなものか、その現実はどうなっているのか、これからどうあるべきか、4回のシリーズで掲載します。1回目は、開館から建設延期に至るまでの経緯を後藤清司副館長に執筆いただきました(前号掲載)。今回は「美術博物館の抱える問題点」「建設が延期になったことへの感想」について友の会役員からアンケートを取り、それを編集部で整理したレポートです。3回目は豊橋市から「美術博物館整備の今後の方針と計画」について伺います。4回目は「これからの美術博物館のあるべき姿について」の予定です。

吉田城址のある豊橋公園は深い緑に囲まれた素晴らしい環境、立地条件は申し分なし。

**【質問1】建物と内容の両面でどのような問題点、または評価すべき点がありますか。**

- 1) 緑に囲まれ、そばに豊川も流れ、吉田城址の歴史もあり、環境としては最高。街の中央に位置し、市電でのアクセスも便利。
- 2) 建物は周囲の自然と調和した設計とは言えない。歴史や文化の匂いを感じ取れる佇まい、心を揺さぶる芸術に対面するときめきを感じさせてくれる雰囲気とは遠く、暗くて重たい感じがする。
- 3) エントランス、ロビーが狭く、休憩スペースとのつながりも悪い。事務室はとて狭く、資料の保管スペースも不足。作品同様に人間のおかれる環境も大事にされるべき。会議室も少ない、研修室も内容の充実には欠かせない。館全体の設備の老朽化や痛み、不備が目立つ。
- 4) 収蔵庫の能力が限界。搬入、搬出の流れも悪く、梱包を解く場所も仮置きスペースもない。
- 5) 小展示室が多いことは市民ギャラリーとして利用しやすく、フル稼働はいいことだ。しかし企画展ではダイナミックな展示が行いにくい。
- 6) 美術館なのか博物館なのか、力が分散している感じがある。
- 7) 年々厳しくなっていく予算の中で、運営や企画には十分な検討がなされ、工夫されている。第4回を迎える全国公募の「トリエンナーレ豊橋星野真吾賞展」は新しい日本画を目指す若手作家の登竜門として、全国に認知されてきており、特筆すべきこと。しかし、全国から来ていただけるような企画展

が少ないのは残念。

- 8) 普及活動ではボランティアによるギャラリートークを導入し、友の会も会報発行、講演会、研修旅行、コンサートなど充実した活動を行っている。特に音楽を展示作品と融合させて発信できたのは素晴らしい。

延期は残念、しかし本当に先を考えた、歴史に残る美術博物館を考え直そう。

**【質問2】美術博物館整備計画の延期にどのような感想がありますか。**

- 1) 直前まで広く公募方式で建設の予定で準備を進めてきたのが、何の前触れもなく急に延期になり、散々反対した子供関連施設が造られることになったのは、今もって納得出来ないでいる。
- 2) 延期は残念ですが、社会情勢の変化と合わせ、見直すべき点もあるのかと思います。ただ延期が豊橋市の芸術文化への理解度と姿勢を示すものとならないように、人間が創造する芸術文化によって、豊かで人間らしい生き方が追求できる文化施設として整備を進め、計画的な文化教育行政を進めていただきたい。
- 3) 延期は至極残念ですが、50年先、100年先を見て慎重に考慮、検討して欲しい。美術館だけでなく、周囲一帯を調和して、素晴らしい文化都市豊橋を、時間をかけて作って欲しい。
- 4) 延期は友の会としても一市民としても本当に残念なことでした。しかし、これから100年以上も市民に愛され利用される、豊橋のシンボルと成り得る「新美術博物館」は、市民コンセンサスを含めた、諸条件が満たされた環境の中で創られるべきであると思直しました。そんな環境作りには、小さな力ですが努力して行きたいと思っています。
- 5) 開館して28年しか経っていないのに、もう収蔵庫が一杯なんて、設計のときにどんな想定をしたのだろうか。豊橋の文化の象徴であるはずなのに、この美術博物館の寿命を一体何年と考えたのだろうか。一度作ればそれっきりではなく、美術博物館は進化していくモノという考えはなかったのか。そういう問題点をキチッと潰してから、取り掛かるべきものではないか。設計者の腕以前に、どんな注文が出せるか、豊橋の文化が問われている。

(豊橋市美術博物館友の会 風伯編集部)

## 『風伯』に思うこと

## 風伯を繙いて

原田多喜子 (563)



『風伯』とのご縁は、いつからだろうかと、ファイルを探してみました。1990年7月10日発行の第6号からB5判で3冊、50号からA4判になっています。

第6号の表紙は、ゴッホの「ひまわり」で、3頁に総会の記念講演の講師黒江光彦先生のお力添えと安田火災のご厚意により実現したとの記事があります。毎号表紙

を飾っているのは、美博で開催されている展覧会から選ばれており、表紙をながめるだけでも楽しくなります。

『風伯』のネーミングは美博の中庭に設置されている彫

刻の作品名であることを28号の編集後記で知りました。また、『風伯』のタイトルバックの焦茶色のブロック壁を35号の編集後記の写真に見つけ、うれしくなりました。

遠方に住んでいる私にとって、月2回の中日文化センター行きはとても貴重な時間です。そして自家用車で1時間半かけて豊橋へ来たのだからと、欲張ってしまいます。そんな時『風伯』で得た情報がとても役立ちます。文化センターのメンバーも同乗して企画展などを鑑賞することもあります。先月は、二川宿本陣資料館まで足を伸ばし「水木しげるの妖怪道五十三次展」を楽しみました。だから名画を封入した会員証は宝物です。

28号から一新された表紙デザインは64号から更にすっきりして、8頁にぎっしり詰まった情報を運んでくれます。

## 名画鑑賞は心の糧

大原玉市 (3078)



『風伯』の記事で、美術博物館所蔵「絵画名品100選」展でベストテン1位に森清治郎画伯の「日本の民家」が選ばれた事を読み、とても共感を覚えました。

私の知人で森先生と親交のある人がいて、数点絵画を見るチャンスがありました。初めて見た時、先生の絵に対する誠実さがにじみ出ていると思いました。また、家の壁の表現などは絵具を充分に使って画布より盛り上がっていて、その迫力に感動いたしました。「日本の民家」は私に心の安らぎを与えてくれました。こうした原風景がどんどん失われて行くことが残念でなりません。平成4年には美術博物

館で森清治郎展が行われ、ゆっくりとその大作を鑑賞でき、とても嬉しかったです。

今年は野田弘志展を鑑賞に行き、ちょうどボランティアガイドさんの説明を聞くチャンスに巡り合いラッキーでした。いろいろ細かい説明にただただ感嘆するばかりで、特に繊細な鉛筆画の制作態度を聞き、名作は一朝にて出来るものではなく、絶え間ない努力と苦闘があって出来上がることをしみじみ感じました。同じ人間でこの様な立派な芸術を生み出す野田先生は本当に素晴らしい方です。よくこのような実在感のある描写が出来るものと芸術の深さに心を打たれました。名画名作を鑑賞した後の心の爽やかさは、私に明日への活力を沸かさせます。まさに名画鑑賞は“心の糧”であり、これからも『風伯』の展覧会紹介を楽しみにしております。

## 無言館を訪ねて

桜井美保子 (3040)



金木犀の香りでしょうか、どこからともなく仄かな甘い香りがただよってまいります。

『風伯』からは展覧会の情報のみならず、研修旅行記などから全国の美術館の情報も与えていただき、毎号楽しみに拝見しております。

以前友の会の研修旅行でも行かれたようですが、信州上田市の無言館の存在を知り、どうしても訪ねてみたくなり行って参りました。木立に囲まれた中に白い建物が一ひっそりと建っていました。ほんとうに名前にもふさわしい雰囲気です。若き日に、好きな絵を描くことを志半ばにしてあきらめ戦地に赴いた数多くの方々の描き残された貴重

な絵が、丁寧に飾られていました。その心情察するに余りあると、胸がしめつけられる想いで一枚一枚拝見いたしました。私自身、豊橋市美術博物館で見たグループ展のなかの一枚の風景画に感銘を受けて以来、「こんな絵が描けたらなあ、そうだと描こう」と筆をとり、絵を描く楽しさを知り、我が人生も充実した毎日でございます。平和な今の時代に生きて、描きたい時にいつでも筆を持つことの出来る私達の幸せが有難く、感謝の気持ちで一杯になります。

また、平松礼二展の折には『風伯』でその記事を読み、美術博物館へ出かけました。ギャラリートークは先生御自身が来場され、一枚一枚解りやすく丁寧に説明して下さい、その感激を胸に帰路についた事を鮮明に覚えております。有難うございました。またこんな機会に恵まれる日がありましたら幸せと存じます。

## 『風伯』65号 アンケートの結果です

会員みなさんに初めてアンケートお願いしましたが、答えてくださった方は13名でした。その中から一部をご紹介します。匿名希望の方はお名前を載せていません。

### 【1】表紙について…表紙の印象は評価が分かれました。

①とてもよい(7)      ②よい(4)  
③どちらでもない(1)      ④あまりよくない(1)  
「最初表紙を見た時、ファッション誌?と眼を疑った。野田弘志氏の絵の部分と知り、その美しさに引き込まれた」「表紙がとてもスッキリしていて好感が持てました(原田多喜子さん)」  
「表紙の絵がすばらしく、他の作品も観たくなくて美術館に足を運びました。予想を上回るすばらしい作品に出会い、しばし猛暑も忘れることができました(兵藤章子さん)」。

【あまりよくない】の回答理由に「モデルがよくない」というご意見がありました。表紙にこの絵を選んだらどんな風に受け止めてもらえるか、と考えながら選ぶことも編集部のお楽しみのひとつです。

### 【2】内容について…『風伯』の内容は、評価を受けました。

①とてもよい(4)      ②よい(8)  
③どちらでもない(1)      ④あまりよくない(0)  
「西澤潤一氏の〈西のモネと東のモネ〉を始めとして、読み応えのある記事が多かった。美術博物館整備に関する記事も実状がよく解った。先のことと言わず、一年でも早く整備して欲しい。名古屋や東京に行かなくても世界のよい作品を鑑賞できたらどんなによいだろうか」「春のコンサートは大変よかったです。大竹広治さんのファンになりました。これからも期待しています(岡田真理さん)」  
「風伯には文化の香りがします。日曜のNHK新日曜美術館とこの風伯が私の美術史です。いつか研修旅行に参加するゾと思いつつページをめくっております(村田咲恵さん)」

「大変ハイレベルな友の会便りだと思います。あまりハイレベルで(友の会の活動も含めて)ますます一般市民から遠い存在にならないようにと願うばかりです」

アンケートはこれから毎行ないます。あなたの感想をぜひお寄せ下さい。『風伯』は会員のもので、これからの誌面づくりに反映していきます。

## 造パラ&友の会 コラボイベント 「すきな絵を選ぼう！」 レポート

豊橋まつりの10/21(日)、造形パラダイスに訪れた子どもたちに美術博物館で開催中の豊橋市民展を鑑賞してもらい、すきな作品を1点選んでもらいました。制作活動(造パラ)に美術鑑賞をプラスし、子どもたちの感性が豊かに育まれることを願って初めて試みたイベントです。



友の会理事が豊橋公園内と美術博物館玄関ホールでアンケート用紙を配布。回答者には記念品(アニマルボールペン)をプレゼントしました。



作品を1点ずつ真剣に鑑賞する子どもたち。140点あまりの作品の中からどれを選ぶか迷ってしまいます。



ベスト1に選ばれた岩原泰子さんの日本画作品「いたずら」。選んだ理由は「犬がとてもかわかったから」「いたずらをしている姿がよかった」など。

### 子どもたちの声

- みんなの書いた作品の一つ一つがこまかくえがかれていてすごかった。選びにくかったけど楽しかった。
- 初めてこの美術館に入ってこの広い中にとっても内容のこいものがたくさんつまっているなあと思った。
- 初めて入ったけど、迷うこともなかったし、とてもわかりやすい館内で楽しく絵を見ることができた。
- とてもすてきな絵がたくさんあって、絵をえらぶのもとっても迷ってしまった。

## 収蔵品紹介

## [舞妓]

中村 正義 ● NAKAMURA, Masayoshi

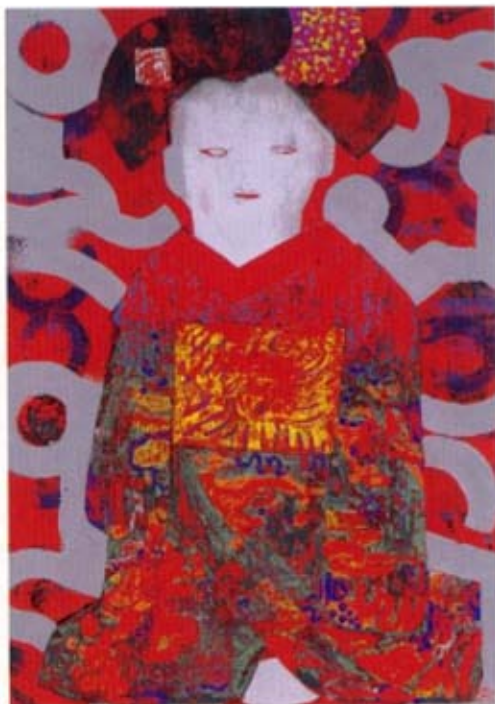
1962年(昭37) 紙本着彩

115.0 cm × 79.0 cm

美しく着飾った舞妓の姿はまさに美人画の伝統に沿った主題である。日本画壇の異端児を自認する正義が生涯にわたってこの画題に取り組んできた意図は、むしろ伝統の側におもねるということではない。それは「舞妓」という主題のもつ様式的な美観の典型、日本女性の美質あるいはエロティシズムの象徴を用いることによるひとつの反逆であった。

中村岳陵門下で研鑽を積んだ時期より「舞妓」は正義が関心を寄せた主題であり、師と意見を異にしたのも着物の前をはだけた《舞子》(1959年)の制作をめぐることであった。文字通り伝統や様式を脱ぎ捨てる結果となった《舞子》下図をみて師・岳陵は「皇室が御覧になる展覧会(日展)に出品するのは不謹慎だ」と語ったという。師が不敵で挑発的な《舞子》に見出した反逆の兆しは、昭和36年の画塾や日展からの離脱・画風の転換へと結びついてゆく。

朱や蛍光色を基調とした奔放な画風へと転じた1960年代、舞妓たちの形態は極端にデフォルメ・矮小化され、重厚で異様な装束にその身を包むようになった。本作はそのさきがけとなった作品であり、有機的にうねるような文様をはじめ、着物の厚いモデリングによる工芸的な質感、補色を多用した刺激的な色味は以後の方向性を告げるものである。ただ、本作は人間が生きることの「醜」を体現化した後年のグロテスクな舞妓たちとは異なり、木偶に金襴の着物を着せた人形のようにあっさりとした無垢な顔立ちではある。その白粉に紅が載っているだけの顔は、歌舞伎役者が汗とともに隈取を白絹に写し取った「押隈」のようだ。そこに個体をもたない「象徴」を示唆する諧謔も潜むが、たとえ舞妓の「押隈」であれ、シンプルであるだけに聖画のよ



うに対峙するものを圧する力も備わっている。着物と背景の朱、背後のうねる文様と舞妓の肉身が同色であるためだろうか、舞妓の生氣や情念が着物という形骸を超えて、どこまでも触手や火焰のように伸びていく錯覚にもとらわれる。

本作はその主題と色調から後年、作家によって賀状にも用いられたのであろう。正義が没した年に星野眞吾によって描かれた追悼作品《昨年の賀状》(1977年)にも登場している。中村正義と星野眞吾を結びつける1枚として、両者の没後の節目にあたる本年の常設展示(12月18日～1月27日)に出品する予定である。

(豊橋市美術博物館学芸員 丸地加奈子)

## 編集後記

あとわずかで師走を迎える頃となりましたが、この夏の厳しい暑さを思い出すと、四季の移り変わりを強烈に感じます。開催中の「千總コレクション 京の優雅」では、小袖や屏風に描かれた繊細な自然観に季節を味わうように和ませられ、同時に花鳥風月の大胆な構図に圧倒されました。季節の移ろいに心を寄せてきた日本の文化が生み出した「美」に魅せられた展覧会でした。

文化も人も、特色ある個性が出会って刺激し合い、生み出される次なるものに期待とあこがれを感じます。美術愛好家だけでなく、全ての市民のためにどんな美術博物館が必要なのか、どのように在るべきなのかを探りながら、皆さまと共に豊橋の美術博物館について考えていきたいと思えます。(福島陽子)

## 【表紙作品】

神坂 雪佳(元禄舞団屏風)(部分)

明治時代末期～大正時代 六曲一双 各77.5cm×224.8cm

「千總コレクション 京の優雅～小袖と屏風～」より

## 豊橋市美術博物館 友の会だより「風伯」第66号

編集・発行 豊橋市美術博物館友の会

会長 原文成

担当副会長 宮田正人

編集長 鈴木伊能勢

編集委員 神野能生子 奥野富美子 福島陽子

協力 豊橋市美術博物館

〒440-0801 豊橋市今橋町3-1 TEL.0532-51-2882

平成19年11月20日発行(5月・8月・11月・2月各20日発行)

平成10年3月17日 第3種郵便物認可 定価200円

※会員は会費に含みます。※定価には消費税が含まれます。